

東京の大学を知ろう!(II)

～シリーズ:大学について知ろう(その11)～

東京には140以上の大学があり、それは日本の全大学数のなんと約5分の1です。ほとんどはもちろん私立大なのですが、それを全部紹介するのは各教室に置かれている『蛍雪時代』に任せ、ここでは皆さんが目標とするのにふさわしいであろう評価の高い大学を中心にお伝えしていきましょう。

私立大学の最難関が「早慶」の2大学で、大隈重信によって創立された(1)大学と福沢諭吉が創立した蘭学塾を前身とする(2)大学の名前は日本全国どこへ行っても知れ渡っています。ただし旧帝大などの難関国立大が後期日程を廃止していったために、近年この2大学は東大・京大・東工大・一橋大など超難関国立大受験者の併願校となり、田舎の普通の高校生が一般入試で合格するのは至難の業となってしまうました。その結果、この2大学の志願者数は減少し続けています。この2大学に外国語学部を看板とする(3)大学と、東京物理学校を前身とする(4)大学を加えて最難関私大を「早慶上理」と称する場合があります。それに続くのが頭文字をつなげて「MAR CH」と呼ばれる5大学で、順番に(5)大学・(6)大学・(7)大学・(8)大学・(9)大学となりますが、これらはいずれも受験者数も多い人気大学です。今回はその中でも太東を2つの学部が指定校としている(5)大学を紹介することにしましょう。

※上記の()の答… 1.早稲田 2.慶応義塾 3.早稲田 4.慶応義塾 5.明治 6.早稲田 7.慶応義塾 8.早稲田 9.慶応義塾

以下の文章は6年前(2014年)に私が明治大学の説明会に行ったときのことを書いたものです。今年の東京は近いのに遠い…、でもその雰囲気をこの紙面で少しだけ味わってくださいな。

MEIJI UNIVERSITY

明治大学駿河台キャンパスに行ってきました…

雨の中、傘を差して“学生の街”神田駿河台を歩く

その日は朝から雨であった。昨日から降り始めた雨は一向に止む気配がない(そう言えば、一昨日気象庁が関東地方の梅雨入りを宣言していた…)。御茶ノ水駅に降り立った私は、明治大学までは5分で着くのだが、傘を広げ別の方向に向かって歩き出す。駅から僅か1分の距離にお目当ての建物はあった。そう、ニコライ堂だ。緑色の屋根が印象的なこの教会は、正教会(世界史で習うギリシア正教東方教会系)の美しい大聖堂で、ビルの谷間にひっそりと立っている。その前でしばらく佇んでいたが、「社会科教師の悪い癖だ」と思い直し明治大学に向かったのだった…。

明治大学は都心に「和泉」(主に文系1・2年が学ぶ)、「生田」(理系の農学部・理工学部が学ぶ)、「中野」(国際日本学部と総合数理学部が学ぶ)、「駿河台」の4つのキャンパスを持つ総合大学で今日訪れる「駿河台」は文系3・4年が学ぶ中心的キャンパスである。すぐ近くには日大理工学部や歯学部があり、明治大の



美しいニコライ堂の外観

すぐ西側には駿台予備校の校舎が建ち並んでいる。一方JR御茶ノ水駅の北側には神田川を挟んで東京医科歯科大や順天堂大医学部もあり、私はかつてその先の湯島天神や東大本郷キャンパスまで歩いて行ったことを思い出していた。駅から東へちょっと行けば“オタクの聖地”秋葉原だが、今日はやめておこう(なお、お茶の水女子大は御茶ノ水にはない…)。そしてこの神田駿河台界限には古書店街・楽器店街・スポーツ用品店街が広がり、学生街の佇まいを今も残している。

リパティタワー17階でランチしようとして厨房の熟女に嫌みを言われる

駿河台キャンパスに門はない。大通りに面していきなり地上23階建てのリパティタワーがそびえ立っている。昼前に到着した私はエレベータに乗り、17階にあるスカイラウンジ眺という名前の学生食堂に直行する。土曜日ということもあり客は数人しかいない。何を食べるか…厨房の熟女に「一番人気は何?」と聞いても「人それぞれだからね」と素っ気ない返事しか返ってこない。悩んだときは、そうカツカレーだ。熟女は「無難な選択だね」と嫌みを言いながらトレーにご飯を盛り、カレーをかけカツを載せた。レジで420円を支払い、東京の町を一望できる窓側の座席に座る。さきほど訪れたニコライ堂の屋根も見える(晴れていればスカイツリーも見えるはずだが…)。さて、その味だが、カレーは甘く、ご飯の量は少ない。しかもカツの衣は厚くしかも全然カラッと揚がっていない。「選択失敗」…だが、外の景色は最高なので寛大な私は許してあげることにした。ところで、この学生食堂はやけに細長く、そして狭い。資料を見ると367座席しかない。これだけの規模のキャンパスの学生食堂がこれでいいのだろうか?でも、これでいいのだ。大学周辺には学生向けの食事場所がたくさんあり、実は神田駿河台の街全体がキャンパスのようなものである。



明治大学博物館で拷問や処刑道具を見て気分が悪くなり、阿久悠の歌詞に涙する

説明会にはまだ時間があるのでリパティタワーを出て明治大学博物館があるアカデミーコモンに向かう。地下にある明治大学博物館は入場無料。展示室には「商品」「考古」「刑事」のコーナーがあるが、特に「刑事」コーナーには古今東西の拷問道具や処刑道具が展示されており、興味深い気分は悪くなる…。博物館を出ると「阿久悠記念館」の表示があり、誘われるように足を運ぶ。2007年に他界した阿久悠は、日本を代表する作詞家で明治大学文学部卒。彼の自筆原稿や作詞した曲(その数は5000曲以上)の一覧を見ていると、なんだか自分の人生を振り返っていくような気になる。「また逢う日まで」に始まり「さらば涙と言おう」「北の宿から」「舟唄」「宇宙戦艦ヤマト」「勝手にしやがれ」「UFO」…この人は天才だ。

説明会で明治大学の就職支援の秘密を知って得をした気分になり、明大マートで息子への土産を買う

リパティタワーに戻ってよいよ説明会。大学説明につづき、入試概況や入試変更点が説明されるが、ここまでは起きていたふりをしてやり過ごす。そして、最後に就職キャリア支援部の大学職員から説明されたのが「就職情報」…これだ。「就職に強い」と言われる明治大学の秘密はここにあった。この職員、説明が上手く、「何故この支援が必要なのか」を解き明かしていく。なるほど、の連続で寝ている暇がない…。

説明会終了後、12号館地下の明大マートという購買で息子への土産を物色。クッキーは値段が高いので断念し、和菓子は無かったが『北海道のハッカ屋さんをつくったハッカ飴』(200円)を発見したので、いつも消しゴムを無くして母親に怒られている粗雑な息子のために『明大消しゴム』(110円)とともに購入。これなら軽くて安い。帰宅後、息子に「明治大学のスクールカラーは?」と聞くと「紫!」と即答(箱根駅伝ファンの息子はやはり知っていた…)。レジのお姉さんがわざわざ入れてくれた紫紺の紙袋から土産を取り出すと、消しゴムを見て「お父さん、ありがとっ!」と叫んだのだった(こんなんでも良かったんだ…)。その夜、眠りに入ってゆく私の頭の中ではこの曲が流れていた…♪～幼い私が胸焦がし慕い続けた人の名は せんせい せんせい それは先生♪(1972年、阿久悠作詞)…自分もそんな先生になってみたかった。